

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 3 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		87,089	t-CO ₂
（温① 二室を 酸効除 化果く 炭ガ 素排 換出 算） 排出量	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）	6,711	t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素	4,300	t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		98,100

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
温室効果ガス 総 排 出 量	90,845	t-CO ₂	81,761	t-CO ₂	92,014	t-CO ₂	91,190	t-CO ₂	98,100	t-CO ₂
削減率（対 基準年度）			10.0	%	▲ 1.3	%	▲ 0.4	%	▲ 8.0	%
温室効果ガス みなし総排出量					91,930	t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）					▲ 1.2	%		%		%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度			
原単位あたりの 排 出 量										
削減率（対 基準年度）				%		%		%		%
原単位あたりの みなし排出量										
削減率（対 基準年度）						%		%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

<p>目標非達成：</p> <ul style="list-style-type: none"> 副生蒸気の発生源となる硫酸工場の稼働率が低下し、化石燃料を使用したボイラーによる蒸気製造が多くなった。 ボイラーについてはCO2排出量の低い燃料への移行推進、太陽光発電設備の増設を進めたが、目標達成に至らなかった。
--

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
一般管理	<ul style="list-style-type: none"> 組織横断的な委員会等の設置 取組状況の確認・評価・見直し 各種課題、カーボンニュートラルに関する有益な情報の共有 	<ul style="list-style-type: none"> マネージメントレビューの実施による組織横断的な周知（年2回） エネルギー管理委員会の実施による 	<ul style="list-style-type: none"> 2か月に1回を目安に、組織横断的な委員会を実施している。
省エネルギー・省資源の推進	<ul style="list-style-type: none"> 昼休み時に不要な照明を消す。 白熱灯・水銀灯をLED照明等に取り替える。 機器購入・更新時は高効率機器を指定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 昼休み時の照明を定期的に落とす。 各種現場の状況を考慮し、LED照明等に切り替える。 	<ul style="list-style-type: none"> 昼休憩の消灯を継続している。 LPG焚きボイラーの老朽化に伴い、ボイラー効率およびCO2排出量削減の観点より、都市ガス抱き貫流ボイラーに更新した。
自動車利用における取組	<ul style="list-style-type: none"> タイヤの空気圧など、こまめな点検・整備する。 次世代自動車の導入を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 担当部署（事務課）で検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 所管課により、適切に点検・修理を行っている。
工場等の製造工程における対策	<ul style="list-style-type: none"> 製造工程の見直し・改善、新設備の導入する。 製造工程で発生する排熱・未利用エネルギーを有効利用する装置の導入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災会議等で検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 適宜実施した。
ハイドロフルオロカーボン等の排出抑制	<ul style="list-style-type: none"> 工程等の見直し、定期的な点検を実施し、充填時や使用時のハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボン、六ふっ化硫黄、三ふっ化窒素などの漏洩の防止を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的なパトロールを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的なパトロール・点検を実施した。 排出量を適切に管理し、報告している。

指針第 2 号様式

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 3 年度目 (令和 6 年度) における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)
2010	太陽光発電	50 kW、50,000kWh/年
2021	太陽光発電	130 kW、130,000kWh/年
2024	太陽光発電	1000 kW、1,000,000kWh/年

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 3 年度目 (令和 6 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

・工場敷地内の遊休地 (西側) に、太陽光発電設備を設置を進めている (2025年10月完了予定)。
--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

・業務に支障のない程度で、定時退社に努めた。
